

**総合学習・ESDによる
高校生の資質・能力向上効果の定量的把握
－3つの高校の比較結果から－**

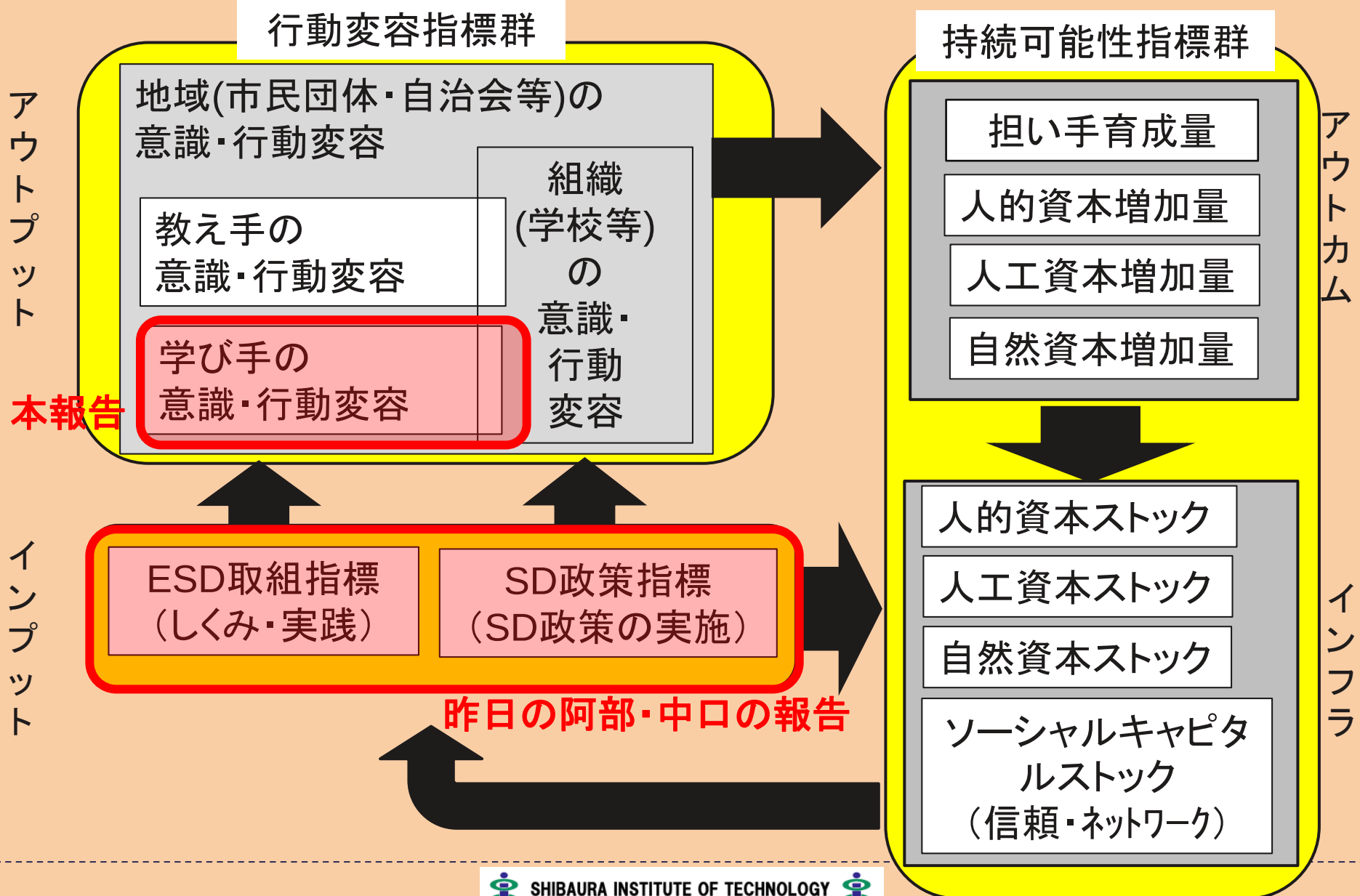
**芝浦工業大学環境システム学科
中口毅博**

研究の背景－問題の所在

- ▶ 若者の流出が地方都市・農山村の衰退の一因となっている
- ▶ 問題の所在
 - ▶ ESDは持続可能な地域づくりのための担い手育成に役立つと言われているが、それを科学的に検証した例は少ない
 - ▶ そもそも地域が「持続可能な発展している状態」とは何なのか
 - ▶ 現状でどんな若い人材がどのように持続可能な発展に寄与しているのか
 - ▶ その人材がどのような教育に影響を受けて担い手になったのか
- ▶ 立教大学ESD研究所の主要テーマ
 - ▶ 地域の持続可能性へのESDの効果を評価する指標開発
 - ▶ 担い手が育つ＝指標を向上させるには、どのようなテーマ・プログラム・方法でESDを進めれば良いのか
 - ▶ アクションリサーチ(効果的な内容・方法を自ら実践する)



評価指標のフレームワーク



研究の目的と対象

- ▶ 本報告では、対象を高校に絞り、総合学習やESDによる資質・能力向上効果の定量化を試み、指標として妥当かを検証する
- ▶ 中四国地方の特色の異なる3つの高校をモデルとして選定
 - ▶ A校:岡山県矢掛町内＝ESD先進校(2008年ユネスコスクール認定)
 - ▶ B校:岡山市内中心部＝中高一貫の市立高校(ESD開始後3年)
 - ▶ C校:愛媛県内子町内＝ESDとしては実施していない(発表者が総合学習に関わり5年目)



総合学習□ふりかえりアンケート(平成28年度)

【□□□】年□□□□組□□□□番 性別【□□□】氏名【□□□□□□□□□□□□□□】

□出身中学【□□□□□□□□□□】中学校□□現在住んでいる市町村名【□□□□□□□□□□□□□□】

01□総合学習等を通して、今年1年間、あなたは次のことがどの程度できましたか。次の選択肢から選び、その番号を回答欄に書いてください。

選択肢: □1.非常にそう思う□□□2.そう思う□□□□3.ややそう思う□□□4.あまりそう思わない□5.そう思わない□□□6.まったく思わない□

NO	質問内容	回答欄
1	適切な情報や公平な考えに基づいて、建設的に思考・判断したり、別の案を考えたりすることができた(批判的に考える力)	
2	授業最終日までにすべきことを予測し、それを仲間と共有し、計画を立てることができた(未来像を予測して計画を立てる力)	
3	人・物・事・社会・自然などのつながりやひろがり理解し、それらを多面的・総合的に考えることができた(多面的・総合的に考える力)	
4	自分の気持ちや考えを伝えるときに、相手の気持ちや考えを尊重し、積極的にコミュニケーションを行うことができた(コミュニケーション力)	
5	相手の立場に立ち、その考えや行動に共感するとともに、仲間と協力して物事を進めることができた(他者と協力する態度)	
6	人・物・事・社会・自然などのつながり・かわり関心をもち、それらを尊重し大切にすることができた(つながりを尊重する態度)	
7	自分の発言や行動に責任を持ち、自分の役割を理解するとともに、課題や作業に主体的に参加することができた(進んで参加する態度)	
8	環境・自然をいたわることが、授業を通して身についた	
9	メディアで見聞したことについてよく考えることが、授業を通して身についた	
10	問題を解決する際に他の人と考えを話すことが、授業を通して身についた	
11	自分で決めることが、授業を通して身についた	
12	考え行動する際に新しいことを試みるのが、授業を通して身についた	
13	書くことによって、自分の考えを授業で良く説明できた	
14	口頭によって、自分の考えを授業で良く説明できた	
15	社会での経験を積んでいる(例 実習、企業見学、プロジェクト等)	

02□この授業を受ける以前、幼稚園・保育園や小中学校や高校1年の時(現2年生のみ)に、以下のようなことをする授業を受けたり、学校外でそのような活動に参加したことがありますか。あてはまるものにすべて○をつけて、さらにその中で自分が真剣に取り組んだものに◎をつけてください。

NO	質問内容	幼・保 [※]	小学校	中学校	高校 [※]
記入例	グループで話し合って意見を1つにまとめること		○		◎
1	グループで話し合って意見を1つにまとめること				
2	現地を訪れて観察したり、聞き取り調査 [※] をすること				
3	問題点を自分で見つけ、解決策を自分で考えること				
4	先生や保護者以外の大人の前で発表すること				

※幼・保:幼稚園と保育園 聞き取り調査:質問し答えを記録しまとめる調査 高校(2年のみ):1年生の時

03□あなたの学校について最も当てはまるものを、次の選択肢から選び、番号を書いてください。

選択肢: □1.よく当てはまる□□□2.どちらかといえば当てはまる□□□3.どちらかといえば当てはまらない□4.全く当てはまらない□

NO	質問内容	回答欄
1	自分が学んだ分野が、自分の学んだ他の分野とどのように関係しているか知ることができる	
2	自分たちの個々の能力向上や関心喚起を促している(読書サークル、文芸サークル、自然科学、コンテスト等)	
3	自分たちに多彩で感激を与えるような機会を提供してくれている(生徒交換、市内旅行、留学、文化祭等)	
4	授業を通して、学校以外の場に訪問する機会が得られている(例 企業、農家、動物学校、科学館等)	
5	グループ作業、様々な道具の使用、様々な作業形態など、多様な授業方法が用いられている	
6	さまざまな種類の問題(社会や個人の問題)を解決することに貢献している	
7	社会での経験を積む手助けをしてくれている(例 実習、企業見学、プロジェクト等)	

04□あなた自身のことについて、最も当てはまるものを、選択肢から選び番号を書いてください。

□1.とてもそう思う□□2.まあそう思う□□□3.あまりそう思わない□□□4.全くそう思わない□

NO	質問内容	回答欄
1	私は将来に対し、はっきりした目標をもっている	
2	社会のために役立つ生き方をすることを目標にしたい	
3	私は、社会での経験を積んでいる(例 実習、企業見学、プロジェクト等)	
4	他人に負けまいと頑張る方だ	
5	現状を変えようとするよりも、そのまま受け入れるほうがよいと思う	
6	家にいると落ち着く	
7	今住んでいる場所で大人になってからも暮らしたい	

05□総合学習の授業を通して自分の考えたことの軌跡を振り返り、この授業が自分の将来や進路に与えた影響や、この経験をどう活かすかといった今後の抱負を、200字以上で書いてください。

回収状況と分析方法

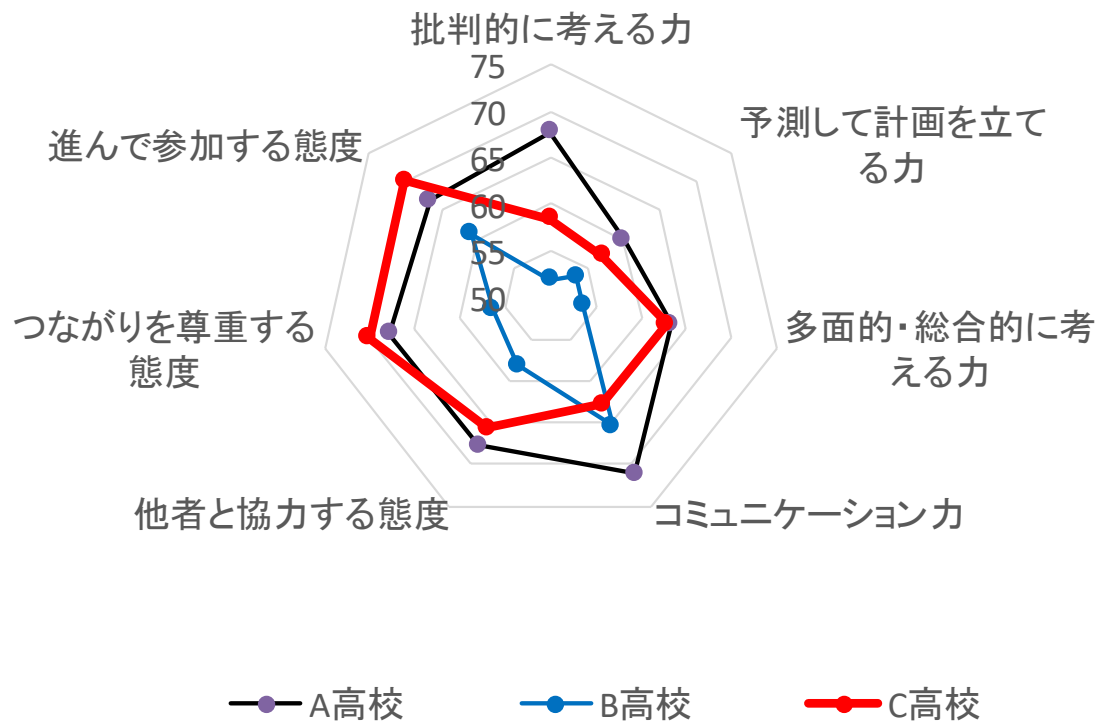
▶ 回収結果は次の通り

高校名	1年	2年	3年	教員
A高校	151	131	121	18
B高校	100	116	－	14
C高校	150	118	92	34

▶ 7段階・4段階評価を100点満点に換算した上で、集団ごとの平均点を算出した。

結果1:ESDの資質能力の比較

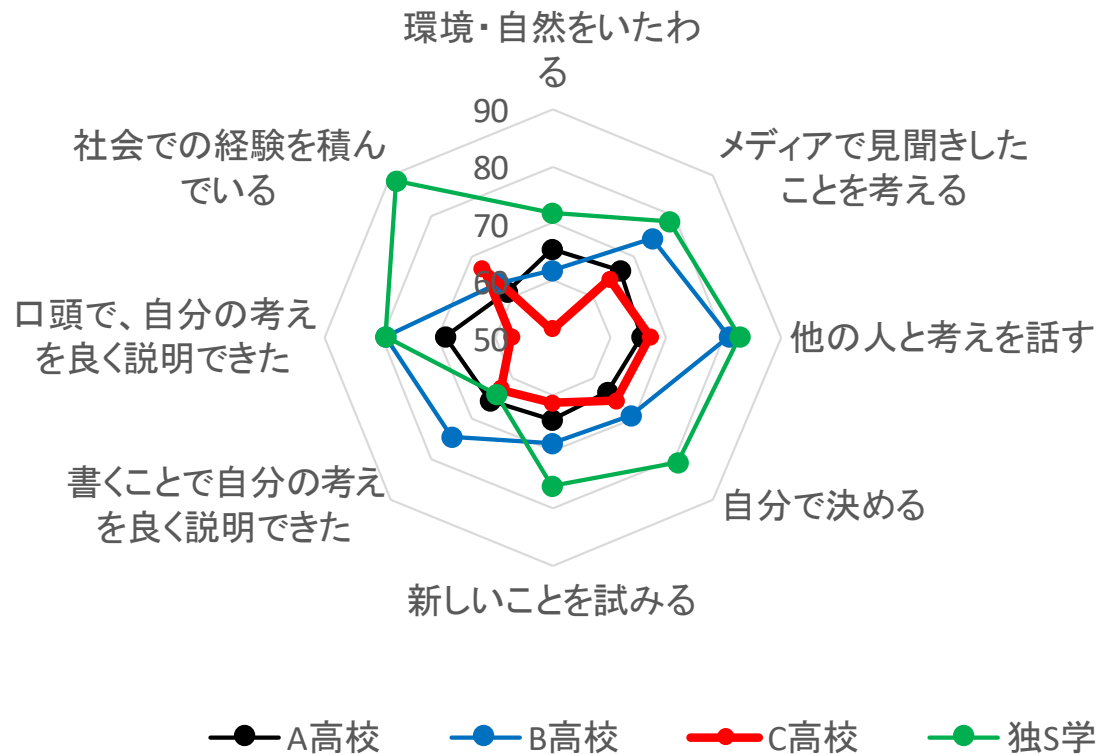
- ▶ 3校を比較すると、2年生の生徒の自己評価は、全体的にB高校が高い。A高校とC高校はほぼ同スコアになっている
- ▶ 教員の評価は、B高校が最も低い



- ▶ 1年生
- ▶ 2年生
- ▶ 3年生
- ▶ 教員

結果2:他の資質能力の比較

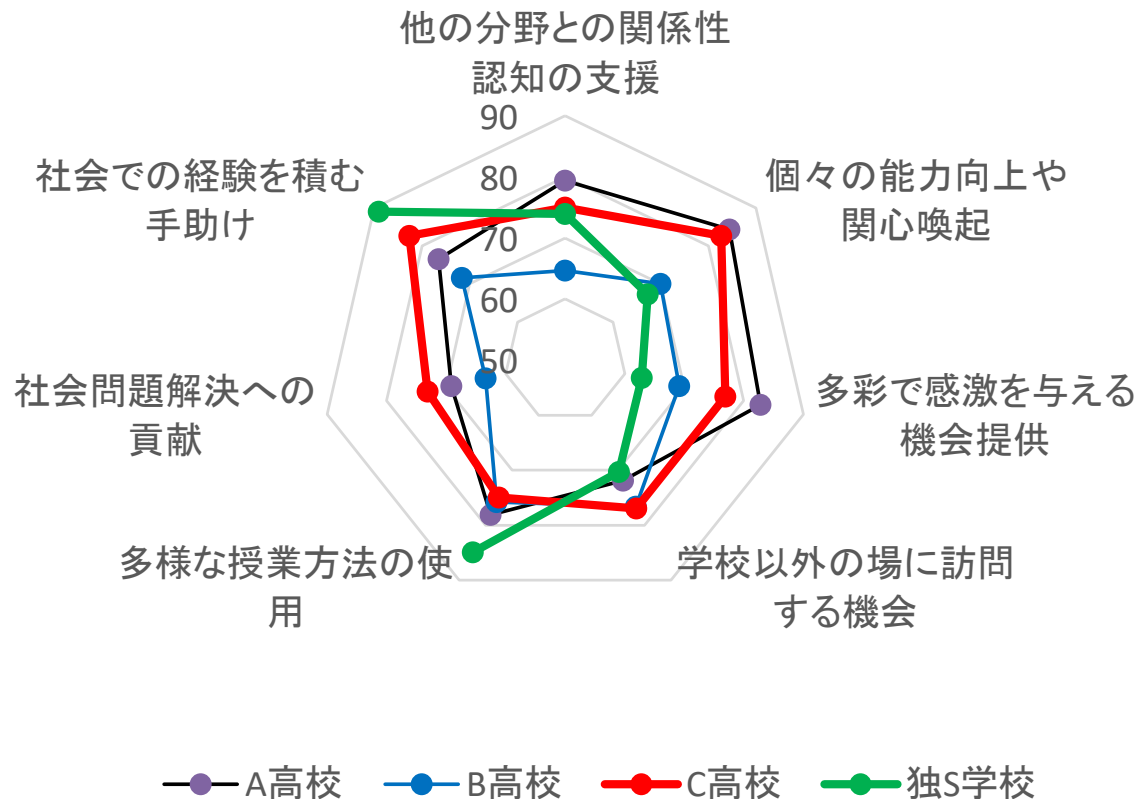
- ▶ ESDの資質能力と同様の傾向
- ▶ 生徒はドイツS学校に比べ、社会経験の自己評価が低い
- ▶ 教員はそれに加え、自己決定や新規挑戦の評価が低い



- ▶ 1年生
- ▶ 2年生
- ▶ 3年生
- ▶ 教員

結果3:学校の支援状況の比較

- ▶ 生徒はB高校、教員はC高校の評価が高い
- ▶ ドイツと比べて社会経験の支援が弱い

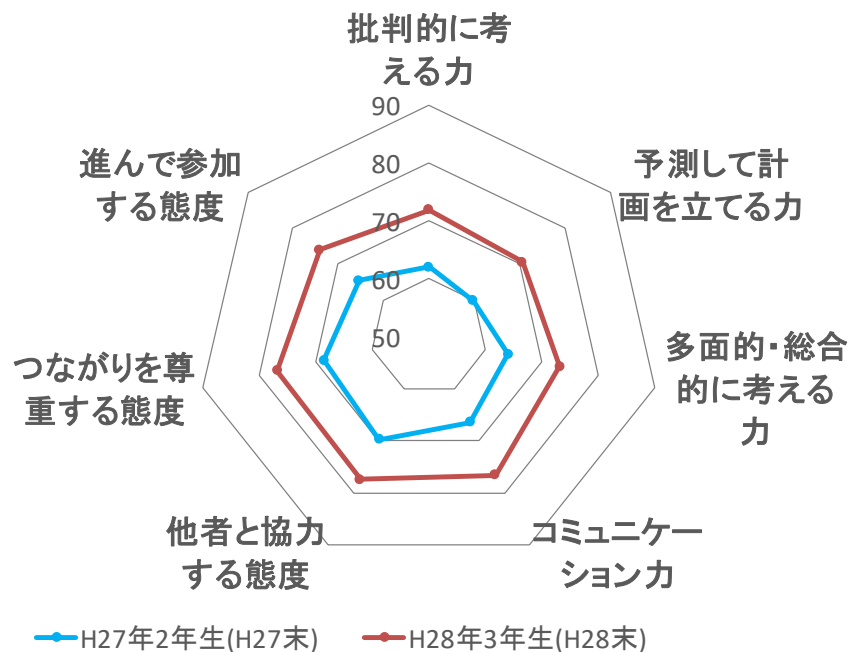


- ▶ 1年生
- ▶ 2年生
- ▶ 3年生
- ▶ 教員

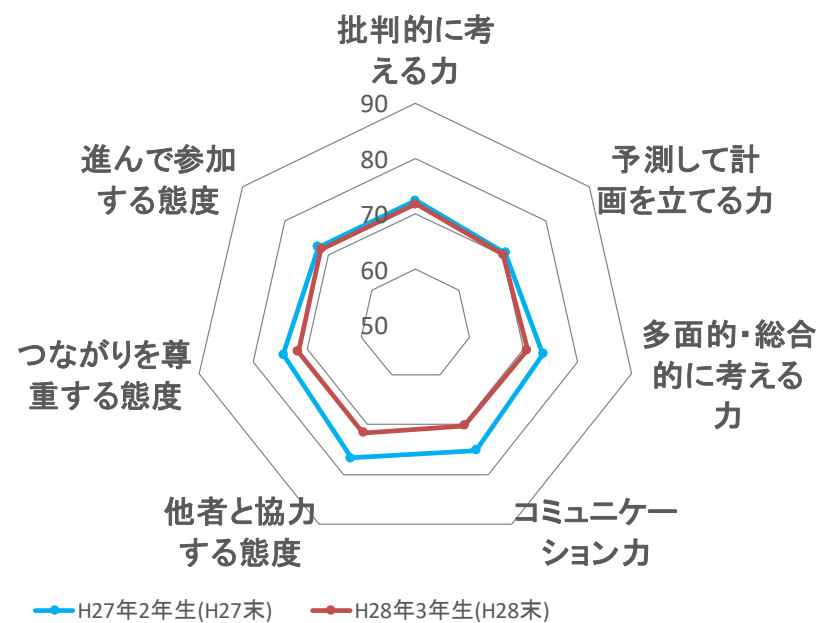


結果4: ESD資質・能力の同一入学年度のトレンド

▶ A高校は自己評価が増大、B高校は縮小



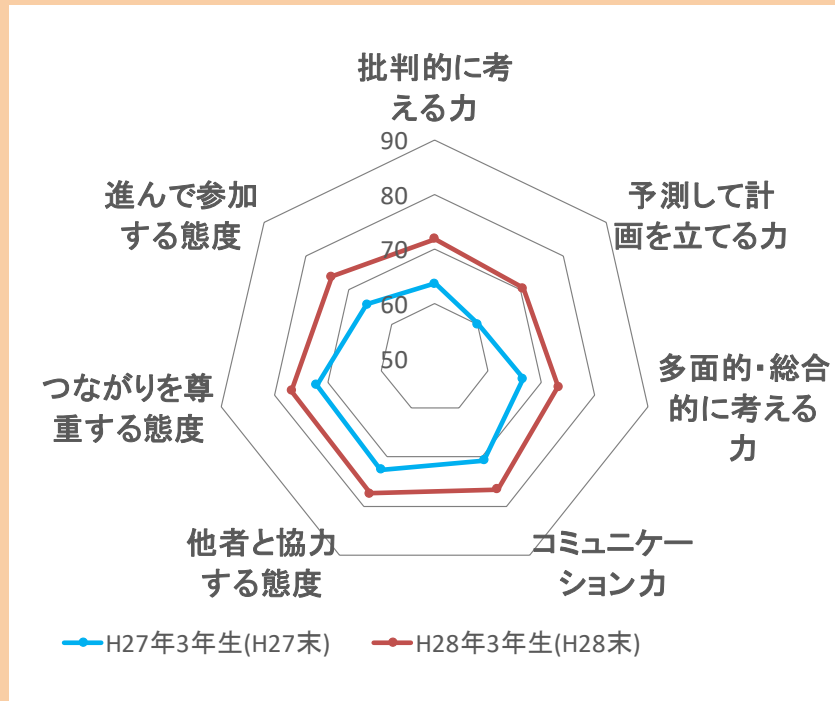
▶ A高校



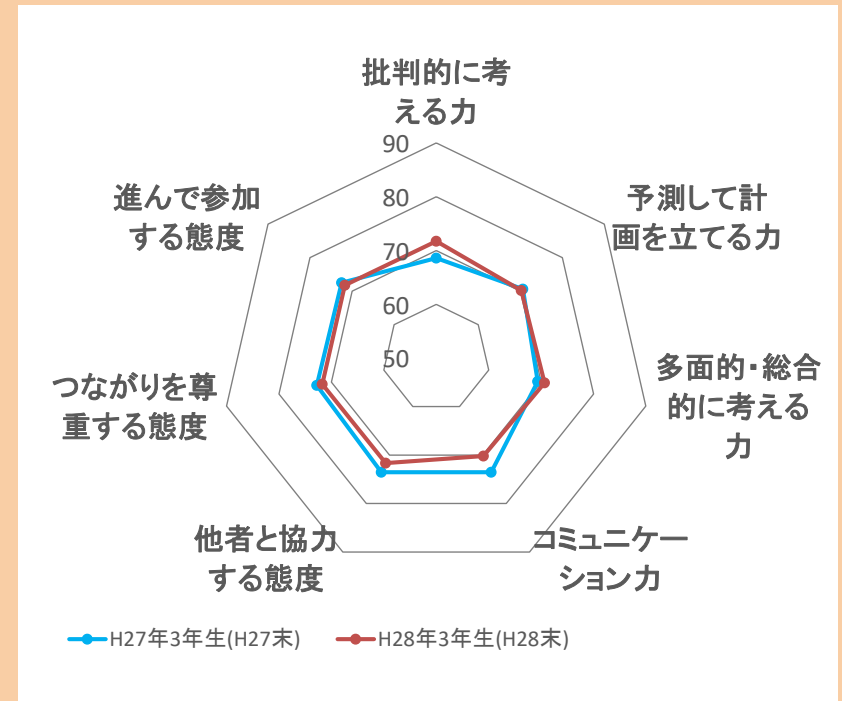
▶ B高校

結果5:ESD資質・能力の同一学年の比較

- ▶ A高校は自己評価が増大、B高校は変わらない



- ▶ A高校



- ▶ B高校

結論と今後の課題

- ▶ 総合学習やESDによる資質・能力向上効果の定量化を試みた
- ▶ 指標の妥当性
 - ▶ 生徒の自己評価は自己肯定感や外部環境が左右するため、効果の指標としては妥当と言い切れない
 - ▶ 教員の評価のほうが客観性がありそうである
 - ▶ 高校間の比較は、効果の評価にはなじまない
 - ▶ 同一高校の同一学年の比較は、使えそうである
 - ▶ 同一入学年度の学習前後については、指標として妥当とは言いきれない
- ▶ 課題
 - ▶ ESDによる資質・能力の7つの尺度は指標として妥当か
 - ▶ SLEによる長期的評価

A高校カリキュラム

	環境CQ			やかげ学		課題研究	
	全コース・科	普通科探究コース		普通科総合コース		地域ビジネス科	
	1年	2年	3年	2年	3年	2年	3年
4月	自己分析、環境入門、職業研究	テーマ設定、探究活動、全国学生コンテスト応募	環境CQのまとめ（個別の進路に応じた進路開拓活動）	矢掛町を知る	施設実習	目的設定、学習計画作成	目的設定、学習計画作成
5月							
6月							
7月	大学研究、進路選択			引き継ぎ会	引き継ぎ会		
8月							
9月							
10月	身近な環境問題、持続可能な社会について	テーマ設定、探究活動、成果報告	具体的な受験準備（個別の進路に応じた進路開拓活動）	施設実習	成果のまとめ、プレゼン資料作成、やかげ学発表会	作品制作、資格取得のための学習	作品制作、資格取得のための学習
11月							
12月							
1月	持続可能な社会づくりへの貢献（進路と仕事）を考える、プレゼン資料作成・発表	持続可能な社会づくりへの貢献（進路と学部）を考える	3年間の成果と課題の確認	中間報告	やかげ学の成果と課題の確認	成果のまとめ、発表	成果のまとめ、発表
2月							
3月							

